

# 3 産・官・学 三者共同での農福連携

## 障がい者の自立と農業の働き手確保の取り組み

「未来の農業」連携懇話会から障がい者の就労支援のための新たな連携が始まりました。

### 1 農福連携の課題

全国的に農福連携が注目されていますが、現状では①磐田市には、農業と障がい者を繋げる機関がない。②農業側も障がい者への接し方・指導方法がわからない。③農作業が障がい者に与える影響の検証が十分されていない等の課題があります。

### 2 課題に対する取り組み

#### ① 農業と障がい者の繋ぎ役（磐田市）

- ・令和2年度に産官学等各分野の者が垣根を越え連携し、それぞれが抱える課題を解決するために「未来の農業」連携懇話会を設置しました。
- ・障がい福祉サービス事業を展開する Grand Farm(株)から農福連携の相談を受けた農林水産課は、「未来の農業」連携懇話会を通して静岡県立農林環境専門職大学を紹介しました。
- ・福祉部門は障がい者の適性をみて農業と福祉事業所のマッチングをしていきます。
- ・福祉課は様々な福祉・就労機関と協力し、個で繋がっている農福を組織化していきます。

#### ② 障がい者が活躍する場の提供（Grand Farm(株)）

- ・Grand Farm(株)は、令和3年に障がいのある方のための就労支援施設「すずなりカレッジ磐田校」立ち上げました。現在6名の利用者がおり、市内農業生産法人のハウスで農作業に従事しています。
- ・障がい者が就労継続するため、セルフケアシートを活用し、自身で体調を把握しつつ、それを職場や施設職員と共有しています。

#### ③ 農福連携の効果検証（静岡県立農林環境専門職大学）

- ・「未来の農業」連携懇話会の取り組みの一環として、静岡県立農林環境専門職大学では、セルフケアシートをもとに農作業が心身へ与える効果の研究を事業者と連携し進めていきます。

### 3 農福連携の推進

- ・研究結果を社会福祉事業者及び農業者と共有することで、新たな農福連携の創出に努めていきます。